



田中 篤



婦人雑誌

第十一卷第五號

玩具研究に就いて

會長 中川 謙 二郎

▲製作材料に關する研究は如何
 玩具は何事の辨へもなき幼児の玩ぶ可きものなれば、之を製作す可き材料は苟も幼兒の身體に危害を與ふるの恐れなきものでなければならぬ。其昔、我輩は玩具に用ゐてある色素に就いて調べたことがある。確か今より二十年ばかり前の事であるが、驚く可し、多くの色素の中には砒素を含有して居るものがあつた。其後世の中も進んで來て居るし、警視廳其他の取締も相當にあることであるから、今日では恐らく右様の有害はあるまいが、併し此點に就いてはまだ充分に注意せられて居るとは見えない様である。是等に關する研究は果して何の位まで進んで居るものであらうか、又賣樂店に於ける藥名と藥局方に於ける名稱とが一致して居ないものが間々ある様であるが是等も誤つて有害物を用ゐる

様な過失の原因とならんとも限らぬ。又塗料の中には色素の外にニス、エナメル、ペンキ等のものがある、是等も中々注意しないと有害なものがあるから、是又實際家の一考を煩はさなければならぬ。

次に金屬玩具は其古びたる後の錆に就いては大に使用者たる父兄の注意を要するものがある。彼鉛やハンダの錆などは余程注意しないとその毒に目されることがある。其他銅の錆も頗る危険であるから、注意しなければならぬ。

以上は化學的の危害に屬するものであるけれども、危害は尙物理的の方面にも澤山ある。金屬玩具の先端や縁邊などは云ふ迄もないが、木や竹を材料にしたものでも、こわれたり何かしたときには余程注意しなければならぬ。製作材料の研究としては尙如何なる材料を如何様に使用す可きか其材料の長所特長を如何に利用す可きかは製作家の大に研究を要することであらう。

▲玩具の種類と教育的價值

玩具には動くものと動かぬものとある。靜なるものは如何なる場合に効あるか、又動くものには如何なる教育的價值ありや、是等に關する研究は果して解決を告げたるものなるか、我輩は何ちらか云へば靜かなる玩具の價值を疑ふものである。少くも其教育的價值は動的玩具よりも少なき様思はるゝのである。玩具の種類の中には物理上の原則を應用したる玩具がある、そして物理學的實驗を示す様なものがある。是等の玩具が子供に喜ばれ樂しまるゝとしたならば大に獎勵す可き筋のものであると思ふ。子供は是等の玩具を樂んで居る中に無意識の中に色々の物理的現象に接觸するこゝとが出来る。是は誠に善い玩具である。

▲玩具の代價と教育

近來、玩具は大分高價のものが、賣られる様であるが、是は寔にいはれないことで、詰らぬことであると思ふ。元來玩具と云ふものは、同一の

ものが、何時迄も、子供の生ひ立つと共に、用ゐらる可き筈のものではないので、子供は感時期に於て感玩具を要求するとしても其時期を過ぐれば又更に他の玩具を要求するものである。即ち同一の玩具は或期間丈夫子供の教育上必要なので、數日、數月を経た時には、最早他の異りたる玩具を要するものである。斯様に玩具夫れ自身の壽命と云ふものは短いものであるから、玩具は後から後からと交代して先のは適當の時期を過ぐれば捨てる可きものである。此捨てらる可き筈の玩具に高い高い代價を拂ふと云ふことは單に贅澤の爲めなら、いざ知らず、平民の家庭には不相應なものである。玩具製造家は此點に猛省して欲しいものである。殊に最も詰らなく感ずるのは、彼價高い玩具を硝子箱に入れて、單に眺めるだけの外子供の手や指を觸れさせない様にした玩具である。是で果して教育的玩具と云ふことが出來様か、勿論、破れ様がやぶけ様が、何でも安價なれ

ば夫れで宜しいと云ふのではないが、去りとして、元來が玩弄してこそ教育的効果のある可き筈のものを、價の高價なる爲めに、之を硝子箱に入れて大切にしなければならぬと云ふことでは切角の玩具の効能を失つて仕舞つたものと云はなければならぬ。

▲玩具と年齢との關係
 兩親の慈愛に因つて幼兒に與へらるゝ玩具は自然に變化があるけれども、併し理屈の上に多少の標準がありそうなものである。又男女の性別に就いても何う云ふ注意が必要であるとかないとか、之を確定して欲しいものである。人形は女のものの、獨樂は男のものと極まつて居る様であるが、是が果して嚴格に守る可きものであるか、是等に就いての研究は如何、聞きたいものである。そして世の一般の父兄に之を知らしめたならば蓋し其効果や著しいものであらうと思ふ。

▲玩具の色彩

玩具は子供の興味に投ずる必要があるから、従つて種々なる色彩があるのは當然であるが、併て其色彩なるものが、彼自然界に於ける花卉草木、鳥獸虫魚の類を比較して適當なる均衡を保つて居るであらうか、我輩の認むる所では、何うも、多少玩具の色彩が自然界の夫れに比して濃厚に過ぐる嫌がある様に思ふ。是は美的教育上決して輕々に看過す可き筈のものではない様である。

▲玩具の音と教育

玩具の音は又教育上頗る重大なる研究資料でなければならぬ。嬰兒時代に美音を聞かぬ子供は一生を通じて音楽の趣味を解せぬものであると云つた人さへあるから、音の種類と教育との關係を研究し、更に夫れと年齢との關係に就いて調べて適當な時期に適當な音的刺戟を與へて聴覺の練習を計り兼ねて聲界の啓蒙に資さなければならぬ。然るに世には無考な人が多くて、生れて數月を経たに過ぎない嬰兒の耳元でブリキ製の極めて高調な

音を發するがらくを振り立て、子供の神經を殊更に興奮させて居る。幼兒の聴覺と感情とを發達させる上に頗る危険な事と云はねばならぬ。一體がらくには其材料に因つて種々なる音の種類がある玩具研究者は其音の種類を調べて最も教育的なるものを指定しなければならぬ。世の父兄は差し當り穩かなる調子で快よき刺戟を與ふる様ながら、を撰んで愛兒の爲めに與ふ可きである。此の外太鼓、鐵琴、笛等の樂器に至つては尙更に大に研究するの價值があらう、折角、音樂的趣味を養成せんが爲めの玩具を非音樂的、非美術的のものとして仕舞つては何にもならぬことである。

要するに玩具は教育品中教科書や文房具に優るとも劣らぬ重要な教育品であるから、是を研究せんとする人々は何處迄も眞面目に且つ實際的に研究する心掛けがなくてはならぬ。玩具研究を古物骨董の研究と同視して娛樂的に歴史的研究のみをして居つては今日の教育には彼立たぬ。史的研究は決して不必要ではないが、詰る所は現物の研究にあることを忘れてはならぬ。